

**宗像市世界遺産保存活用検討委員会
令和2年度第1回会議録（要旨）**

日 時	令和2年10月20日(火) 13:30~14:30	会 場	海の道むなかた館講義室
委 員	<input type="checkbox"/> 西谷正 <input checked="" type="checkbox"/> 伊崎俊秋 <input type="checkbox"/> 黒木貴一 <input checked="" type="checkbox"/> 仲間浩一 <input checked="" type="checkbox"/> 大方優子 <input checked="" type="checkbox"/> 福島敏満 <input checked="" type="checkbox"/> 平松秋子 <input checked="" type="checkbox"/> 長友貞治 (順不同、敬称略)		
事務局	宗像市世界遺産課 <input checked="" type="checkbox"/> 青木 <input checked="" type="checkbox"/> 合島 <input checked="" type="checkbox"/> 岡		

1、はじめに

事務局宗像市世界遺産課課長 青木 挨拶

各委員自己紹介

続き、事務局の保存係係長合島と企画主査岡の自己紹介。

2、委員長、副委員長の選出

事務局から、委員長については、海の道むなかた館の西谷、副委員長に伊崎委員にお願いしたい旨提案。

【一同】承認。

3、協議事項

(1) 世界遺産の保存活用に関する取り組みについて【資料1】

資料に基づき、事務局から説明

- 「海の日イベント」のウェブにアクセスの集計は期間はいつからいつまでか。

⇒7月23日から8月31日までです。

- 去年あった沖ノ島クルーズは来年はどうか。

⇒沖ノ島の遠望船事業でやっていたが遠望船事業がどんなものかという試行も含めて去年行い、それをふまえて民間の旅行会社や興味を示したところがあった。大島の方々がこれを機に事業化できなかつたということで検討を進めている。実施に向けては、課題は多いが動いている。具体的には、JR九州がビートルを使って2便沖ノ島周囲までいくというクルージングを実施している。

昨年度は協議会が主催し、モデル事業的に実施した。今年度以降は協議会が実施をすることはないと思う。

- 秋の神奈備祭がパブリックビューイングで視聴というのが興味深く、有料で50名でライブ中継とあったが実際にはどのような方が参加されたのか。

⇒主催は、道の駅むなかたで会場を道の駅むなかたと当館で開催とされて当館では展示室の大型スクリーンにライブ中継を映し出して50人近くのお客様にみていただいた。50代から60代の方多かった。福岡市内の方もいらっしゃったが、宗像、福津の方が半

ぐらいいらっしゃった。

●今このような時期でオンラインツアーなど可能性があるのかといった新たな発信方法があるのではないかと思った。

⇒ありがとうございます。高宮祭場まで階段等を登れなかった方々がここで見る事ができたり、最近神奈備祭の会場もお客様がすごく多いということもあり、当館としましては、この大型スクリーンを世界遺産の映像ばかりではなく、こういう形でつかえたということが新たな手法だったので選択肢が広がったと思う。

●1Pの定期モニタリングの話がありましたが、世界遺産委員会で6年に1度きちんとしたモニタリング報告があると思うが、沖ノ島の場合は、いつが予定なのか。

⇒世界遺産委員会の定期報告の6年に1回ということは全世界で決まっている。来年度が報告の時期になっている。今年度は大規模調査を含めた資料集めをしていきます。

2)「世界遺産のあるまちづくり計画（仮称）」について

資料：素案についての説明

●P22、P23の「守る・整える」のところで、太陽光パネルが最近また目立ってきたており、宗像は周囲を山に囲まれて緑がきれいであるが、それが切り取られ、景観という点で気になるところである。また、耕作放棄地が増えている。この基本計画の中で農業や漁業の具体的な対策が必要である。P24では、小学生を対象とした水辺教室の実施をしているが、実質私ひとりで行っているのが現状で、あとを引き継いでいただく方が必要である。総合的には、小中学生が学ぶ郷土宗像市についての学習用のテキストを作る必要があるのではないか。宗像市史の編さんが進んでいるが、子ども達にわかりやすいテキストがあればよい。

⇒メガソーラについては、P23の④⑥の対応になるが、大規模な開発がある場合には、必ず景観協議がなされている。開発がある場合には世界遺産課にも報告があり、強制力はないが、指導して業務内容を修正していただき、計画に基づき管理していきたいと考えている。特に緩衝地帯の中ではメガソーラについて目を光らせていたが、野坂の開発は、宗像大社から帰る時に目立っている。市としても緩衝地帯だけでなく広い視野で宗像の自然景観をどうするのか、協議の場を作って管理していく。

第1次産業についても耕作放棄地の問題、漁獲量減少の問題は宗像市の歴史伝統を守る意味でも市の課題として捉え、担当課だけでなく色んな方の意見を取り入れながら、広い視野で今後も第1次産業の振興に力を注ぎたい。

水辺教室も同様に、先生に頼りきりで大変申し訳なく思っている。ボランティアの方々、ノウハウをお持ちの方々の力をかりながら、事業を継続していける方法を考えていきたい。小中学生には、世界遺産を核としてふるさと学習を取り入れている。小中一貫でカリキュラムを組んで学習を進めている。

補足であるが、委員のおかげで水辺教室は小学校の授業として定着している。世界遺産課と環境課とで協議をし、継続していきたいと考えている。ふるさと学習も、郷土文化があってこそその世界遺産と思っているので副読本を使用しながら、しっかり継続してやっていきたい。

また、ゴミについては、台風で打ち上げられたものなので、あれだけのものが海に漂っていたのかと考えさせられた。ゴミは捨てないところから始まり、それが世界遺産を守る事に繋がっている事を子ども達には学んでほしい。

●水辺教室の最後は江口の海岸でゴミ拾いをするが、子ども達には海岸のゴミに7割が川から流れてくるので、海岸の掃除だけするのではなく、まちの中でゴミを捨てないようにする話をしている。

●まちづくり計画全体として異議を唱えるものではないが、変換ミス等細かなところのまとめをお願いします。また、P14で5項目あるが、「活かす」を「整える」の後に持ってきた方がよいかと思う。P22の表の中にロゴがあるが、この説明が必要かと思う。また、P21のSDGs、P27のDMOの文言の説明も必要かと思う。

⇒基本計画の中の凡例の説明は、別途いたします。SDGsとDMOについては注釈を付けるようにする。P14の5項目の順番については、他の委員のご意見はいかがでしょうか。

●文章としては(1)(4)(2)(3)(5)の順がいいと思う。

●何かしてから次へ進まなければならないわけではない。図式として五角形のものが動いている感覚で捉えてはどうか。

⇒「伝える」に関しては、市民の皆様にはしっかり伝えていって価値をわかっていることが必要かと思う。「受け入れる」「活かす」を考えると外部の方からもという意味もある。仲間委員がおっしゃるように5項目が連動していけるように見せ方も含めて事務局で検討する。

●大島の観光振興の中にオルレが入っていないのはなぜか。

⇒P27あたりになってくるが、島に限った地域資源なのか、宗像市としての地域資源なのかを検討させていただきます。

●オルレは特定の規格なので、もう少し大括りにして、歩いて体験できる地域資源の楽しみ方や地域の魅力を促進していくものの中にオルレが入っていると思う。

⇒おっしゃる通り具体的すぎる面もあるかと思う。P27の資源の中で、島を歩くことによる地元の方との交流の中で、うまく組み込んでいきたい。

●大島に行った際に、野鳥の会の方々が集団で歩いて島内を回っていた。

●根本的な話になるが、世界遺産課が作る計画で都市計画課が絡んでないのであれば、テーマが多様で、生態系や環境学習、人材育成、ソーラー発電等色々ある。その割には、計画範囲がバッファゾーンを基準に設定されている。範囲に対してテーマが多角的で総合計画のミニチュア版のように感じる。世界遺産のまちづくり理念の目標が、世界遺産ならではのところで絞れないのか。更にDMOの5年後に法人認定の話も出てきてハードルが高いように思う。宗像の観光を考えると、世界遺産だけではなく、他にもあるので、区切りをつけるのが難しい。問題になっているのは、土地利用転換の中で、個別の生業従事者や農業従事者の高齢化が進み現金収入があるのでメガソーラーを立ててしまい、九州電力は送電線を整備するので、景観計画で決まっている高さ制限を例外措置でパスしている。まちづくり計画の目線で見た時に、ソーラーパネルや工作物ができる現象を行政目線で捉えるのか、暮らす人たちの取り組みを呼び起こす計画に持っていくのか、あまりにも立体的すぎる。世界遺産課がまちづくり計画でやるのがしぼり切れていないのではないかという印象を受けた。人材育成については、非常に重要で次世代の育成の話はこの計画の中でやっていくことであるが、農林水産業の生業支援はちょっと重いように思う。

●世界遺産の価値の前提をしっかりとっていく時、どうしても沖ノ島の考古遺物に世界遺産の価値の集中がいており、もともと登録の過程でも沖ノ島以外はないといった無形部分の価値が認められた部分の価値を明確化する事も大事である。今回の「守る」部分でも保全ばかりになっているので、無形部分がどれだけ価値があるかを明確にして、そこを守っていくことが当社の課題になっているのでそれも盛り込んでいただきたい。

⇒委員がおっしゃるように、各課で管轄している各計画の中で、世界遺産というキーワードで抜きざししたものが、現状ではここに書いてある。レベル的にもDMOという具体的なものがでてきたりといった状況である。明確なものは、整備の段階で、任せる部分と世界遺産課しか書けない部分を表に出しながら、こちらでみていく部分だけを抜いていくともう少しすっきり分かりやすくなると思う。

●せっかく世界遺産になったので、それをうまく利用しながら継続的な玄海大島地域の質を上げていくのが本質的なまちづくりではないかと思う。

⇒P21にあるように、地域の幸福度という言葉を使っている以上、結果的に世界遺産が宗像であってよかったなと思えることが幸福度かと思う。その思いは書くことは可能かと思う。

●理念として住民の目線で見るときに、自分たちが次世代に何を引き継いでいくのか、どう幸福になるのかがわかる計画になっていればいいと思う。

⇒基本計画の中は、この理念に基づいて各課で振興管理している各計画の中での基本計画、事業を各課から挙げている。レベル的に統一していないところもあるので本日皆さんからいただいた意見を事務局で確認し精査していきたい。

手を広げ過ぎてずれているというところもあった。世界遺産のためには何をすればいいのか明確にしていきたいと思う。その進捗をみながら今後パブリックコメントにかけて完成を目指す。スケジュールは改めてお知らせする。

4、その他

黒木委員、仲間委員から、仕事のご都合で退任の申し出あり。後任を選定中。

宗像神社境内の保存活用計画については、文化財の審議会で審議をする予定であったが、文化庁からこの本委員会で検討した方がいいとの助言をいただいた。専門分野の方の補充をはかり、改めて保存活用計画についてもご審議をいただきたい。

次回は12月ごろを予定している。

以上

。